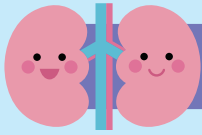


慢性腎臓病について

腎臓・糖尿病内科部長 岩永 伸也



腎臓について

腎臓という臓器はどういう働きをもっているのでしょうか。おしっこを出す臓器だよとの答えが多いのですが、実は色々な機能を持っています。おしっこを出すことで水分量調整をするだけでなく、体内で作られた老廃物の排泄や血液中のphの調整・ナトリウムやカリウム・カルシウム・リンなどの電解質の調整・血圧の調整・造血ホルモン・ビタミンDの活性化などの機能があります。ですから、色々な機能をもつということは、多種多様の病気が存在します。今回はその中で大きな範疇である慢性腎臓病について説明します。



慢性腎臓病とは？

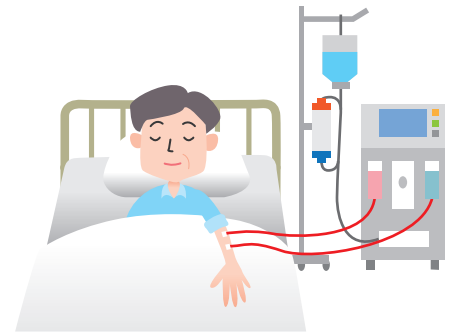
以前は、慢性腎不全と呼ばれ、腎機能低下すなわち血液中に尿毒素がたまってきた状態でしたが、慢性腎臓病という概念が医療界に浸透しております。慢性腎不全の概念に、採血上の腎機能低下を伴わない腎障害を示唆する所見として検尿の異常（蛋白尿・血尿）、画像的異常（腎臓が片方機能していない例やスポンジ状の嚢胞腎など）などを含めるようになったことです。蛋白尿のみでも慢性腎臓病の範疇に含み、日本人の1,330万人（2012年）に達し、成人8人に1人が慢性腎臓病となります。生活に支障ないのになぜ病気として取り上げる？という、まずは慢性腎臓病は透析の予備軍であるとともに、心血管系疾患（脳卒中・心筋梗塞）の発症リスクが高いことがわかったのです。早期の段階で医療介入すれば、透析導入の抑制や心血管疾患の発症率に影響するのです。慢性腎臓病の患者さんは透析導入されるよりも心血管系疾患の死亡数が多いとも言われております。蛋白尿・血尿を指摘されたら、主治医に相談か腎臓専門医を受診して下さい。当院の外来では、患者さんと相談しながら、腎臓だけでなく幅広く検査をおこないます。その過程で腎疾患だけでなく、心血管疾患や腫瘍性疾患・膠原病が見つかる例もあります。

透析療法について

日本では34万人以上（2019年）の方が透析療法を受けています。

透析は人生の終わりだと考える方もいますが、他の臓器では体を維持できなければ生命を保てませんが、腎臓は体を支えきれなくなっても、人工臓器の「透析」という手段があり、まだまだ人生を楽しむことができます。

20年以上透析している方は、透析患者総数の8.4%ととなる約3万人で、その数からも「透析」は完成された療法といえます。



腎・糖尿病内科のご案内

平成15年8月に、20床の血液透析（HD）室と腹膜透析（PD）室が新設され、慢性腎不全だけでなく急性腎不全・急性肝不全・多臓器不全・薬物中毒・自己免疫疾患等に対応できる質の高い体外循環治療を行えるようになっております。平成25年7月には、C棟に外来透析専用の腎・透析センターが新設され、48床の透析ベッドの増床と行っております。当施設は、限られた専門医行われる腹膜透析だけでなく、当院の渡辺修一腎・透析センター長が考案した腹膜透析と血液透析の利点を組み合わせた治療（PD+HD併用療法も受けることができます。

当院は、ダイヤモンドプリンセス号の新型コロナ感染者の受け入れから始まり、対応病院として他施設でのコロナ透析患者の入院治療を受けいれしております。透析患者のコロナ死亡率は、11.7%であり圏内全体の死亡率1%と比較して高値であり、漸くワクチンが開始されましたが油断出来ない状況であり、スタッフ丸として対応し乗り切りたいと考えております。

是非
ご相談下さい